

西之丸蔵跡追加調査について

1. 調査の目的

西之丸の展示収蔵施設の外構整備として、米蔵等の位置を平面表示することを予定している。これまで蔵跡の位置を把握するために試掘調査等を実施してきたが（資料 6-2）、位置に関する明確な情報は得られていない。過去の調査成果を踏まえつつ、蔵跡等に関する情報を収集するため発掘調査を実施する。あわせて絵図等から読み取れる情報(資料6-3)を総合して、蔵跡等の位置を推定することを目的とする。

2. 調査区の設定

(1) 一番蔵（資料 6-4）

- ・2012 年度に 1 か所（1 トレンチ）、2018 年度に 3 か所（1-EN/1-ES/1-W トレンチ）トレンチ調査を実施。建物基礎等は検出されなかったが、帯状に三和土が検出されており、蔵の周囲を巡るものと推定。
- ・2019 年度の枿の掘削の際に、敷き詰められた瓦を確認。一番蔵の戸前の雨落ちに伴う遺構と推定。
- 蔵に関連すると推定される三和土の範囲を把握するために A ～ C 区を設定。B 区については、戸前の位置を把握することも目的とする。

(2) 二番蔵（資料 6-5）

- ・2012 年度に 1 か所（2 トレンチ）、2018 年度に 3 か所（2-E/2-W/2-S トレンチ）トレンチ調査を実施。蔵の位置を推定できる明確な根拠は未確認。（2 トレンチでは瓦を砕いて敷き詰めたような遺構が検出されているが、蔵との関係は不明）
- ・「御本丸御深井丸図」と「金城温古録」では、記載されている一番蔵と二番蔵の間隔が異なる。一番蔵の推定位置を基準にすると、二番蔵の位置は二通りの復元が可能。
- 蔵跡に関連する遺構を把握するため C ～ F 区を設定。二通りの復元案のうちどちらでも対応できるよう調査区を配置。C 区では一番蔵と二番蔵の間の通路（門）についても把握する。

(3) 五番蔵（資料 6-6）

- ・2012 年度に 2 か所（18・21 トレンチ）、2018 年度に 2 か所（5-W/5-E トレンチ）トレンチ調査を実施。蔵の位置を推定できる明確な根拠は得られていないが、蔵に関連する可能性がある三和土やその下の根固め石等を検出。
- ・21 トレンチからは、近代に掘削された瓦組の水路と推定される遺構を検出。その位置からして、金城温古録に記載されている近世の水路を踏襲した遺構であると思われる。
- 2019 年度に五番蔵の平面表示の基礎工事を実施。基礎の周囲に G・H 区を設定し、五番蔵の位置についての情報を収集する。

(4) 六番蔵（資料 6-7）

- ・石列のき損及びその検証調査によって、六番蔵基礎の東辺の位置が判明。
- ・礎石は、20 石（19 間分）の位置が確定できる（又は強く推定できる）。金城温古録に記載されている大きさは 20 間に相当するため、1 間分（礎石 1 個分）不足。1 間分の礎石を北か南のどちらに配置するかで二通りの復元が可能。
- 蔵跡の位置を把握するために I ～ K 区を設定。二通りの復元案のうち、どちらでも対応できるよう配置。

(5) その他（資料 6-8）

- ・近世の水路の位置を把握するため、L 区を設定。L 区、C 区にて水路に関する遺構が検出されれば、21 トレンチの成果及び金城温古録の絵図と合わせて位置の推定が可能。

3. 調査の予定

(1) 調査期間

令和 3 年（2021）5 月～9 月

(2) 調査方法

舗装の撤去・表土の除去にのみ重機を使用し、以下は手掘りにて掘削。掘削深度は、蔵が建設された近世遺構面までを原則とするが、遺構の性格を把握するため必要に応じて最小限の断ち割りを実施する。

調査終了後は、山砂を敷き、重機を用いて発生土にて埋め戻しを行う。

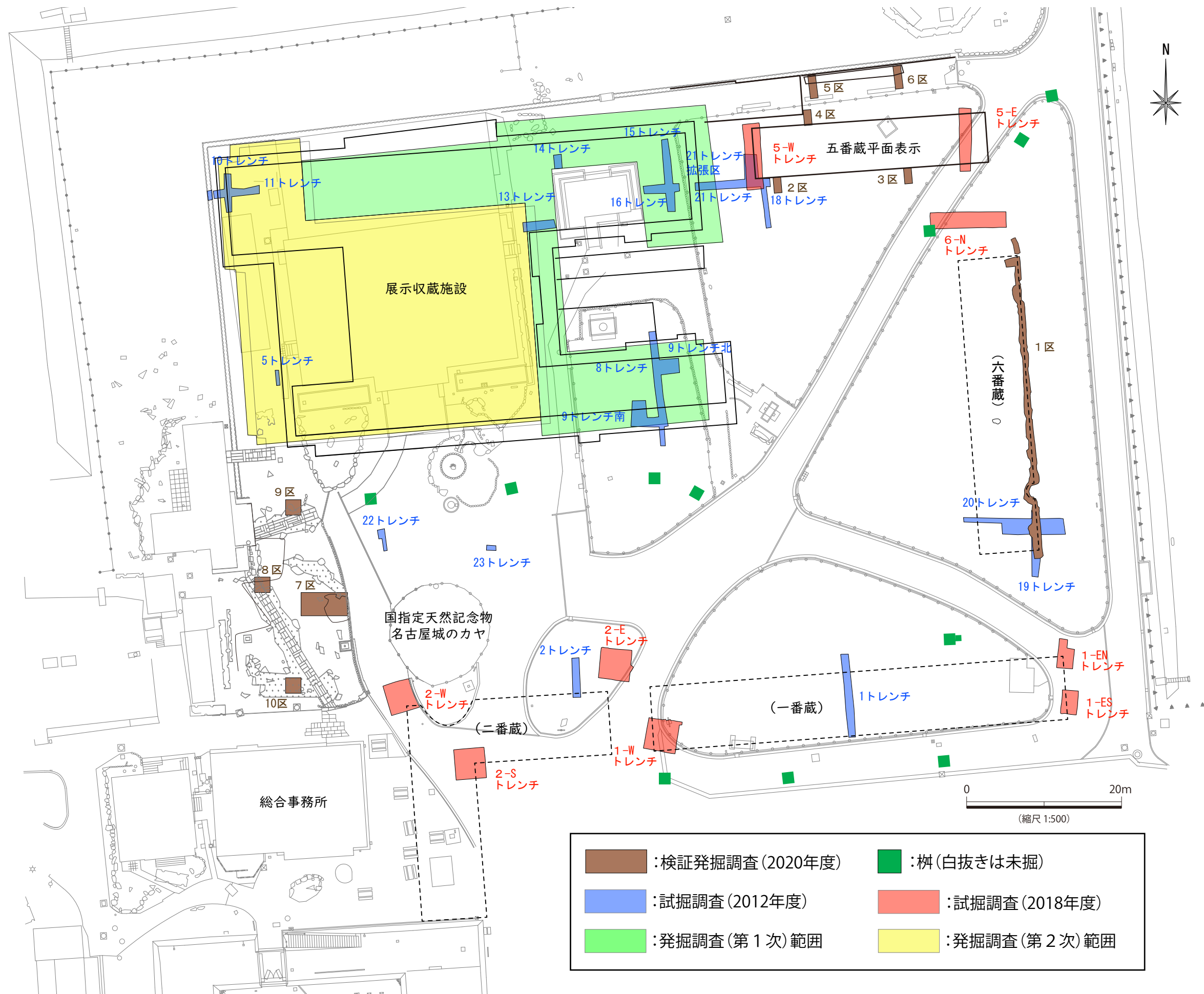


図1 西之丸の既往の調査地点

表1 西之丸米蔵の大きさ一覧

蔵名	配置	「御本丸御深井丸図」 (文政～天保5年 [1818～1834年])		「金城温古録」 (天保5年～万延元年 [1834～1860年])	
		長さ／幅		長さ／幅／高さ（軒高）	
		原図記載	メートル換算※1	原図記載	メートル換算※2
一番蔵	東西方向	27間 ／4間梁 (+北庇1間)	53.19m ／7.88m (+庇幅1.97m)	29間3尺 (土台外回り) ／4間2尺2寸 ／2間1尺5寸	53.63m ／7.94m ／4.09m
二番蔵	逆L字	折廻30間 ／4間梁 (+北西庇1間)	折廻59.1m ／7.88m (+庇幅1.97m)	東西14間4寸・ 南北17間5尺4寸 ／4間2尺4寸 ／2間1尺5寸	東西25.57m・ 南北32.54m ／8m ／4.09m
三番蔵	東西方向	28間 ／3間梁 (+南庇1間)	55.16m ／5.91m (+庇幅1.97m)	30間3尺 ／3間2尺3寸 ／2間	55.45m ／6.15m ／3.64m
四番蔵	東西方向	30間 ／5間梁 (+南庇1間)	59.10m ／9.85m (+庇幅1.97m)	32間5尺 ／5間3尺5寸 ／2間2尺	59.69m ／10.15m ／4.24m
五番蔵	東西方向	15間 ／3間梁 (+南庇1間)	29.55m ／5.91m (+庇幅1.97m)	16間2尺5寸 ／3間2尺4寸 ／2間	29.85m ／6.18m ／3.64m
六番蔵	南北方向	記載なし	記載なし	21間5寸 ／4間2尺 ／2間	38.33m ／7.88m ／3.64m

※1 1間＝6尺5寸＝1970mmとして計算
※2 1間＝6尺＝1818mmとして計算

蔵跡配置

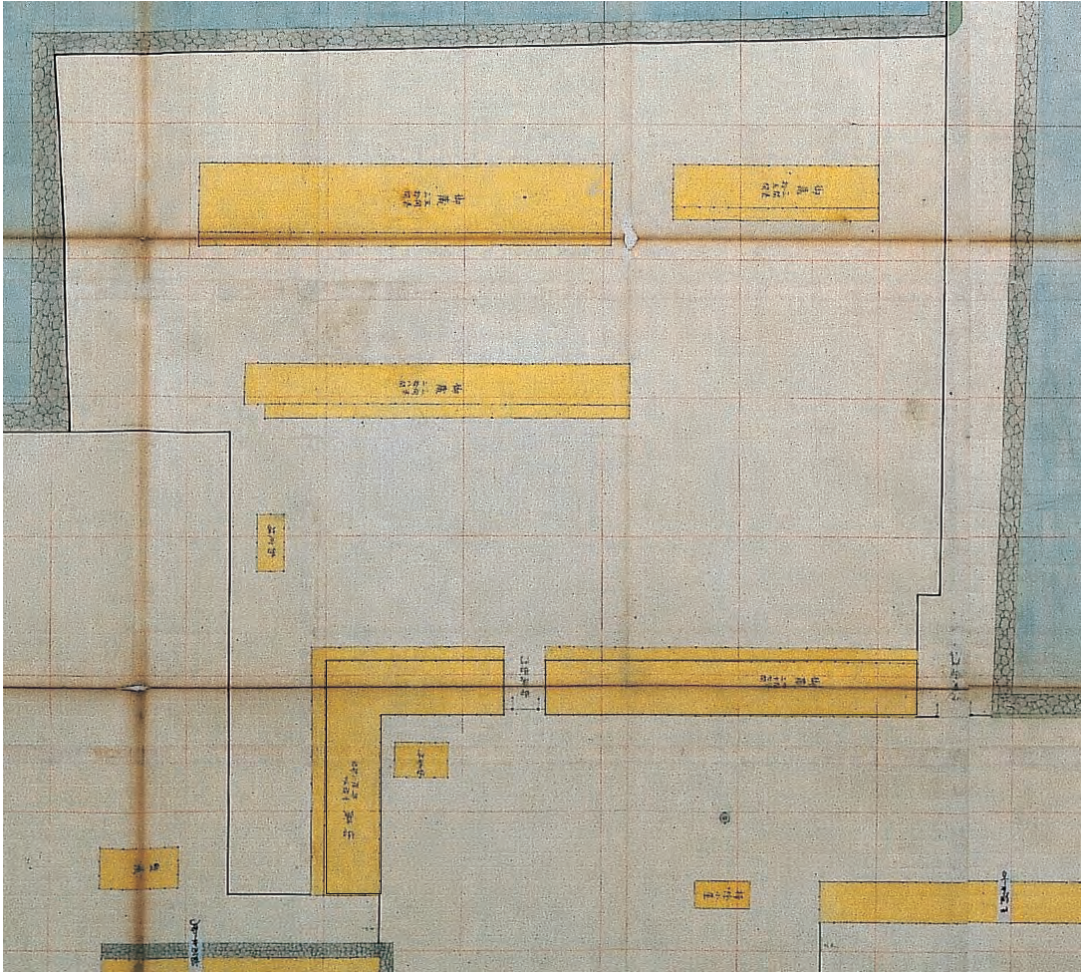
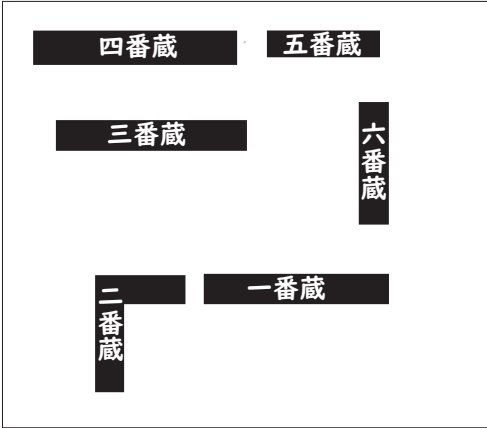


図2 「御本丸御深井丸図（名古屋市博物館所蔵）」記載の米蔵

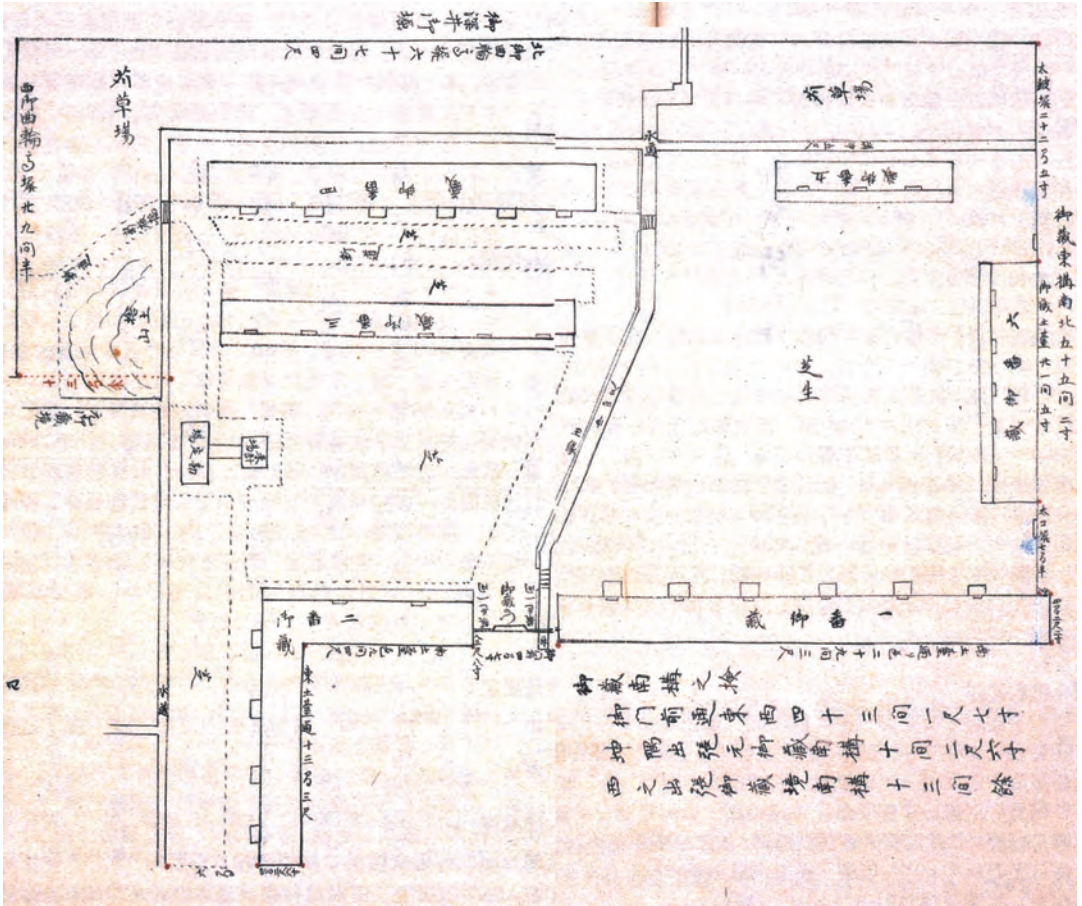


図3 「金城温古録（名古屋市蓬左文庫所蔵）」記載の米蔵

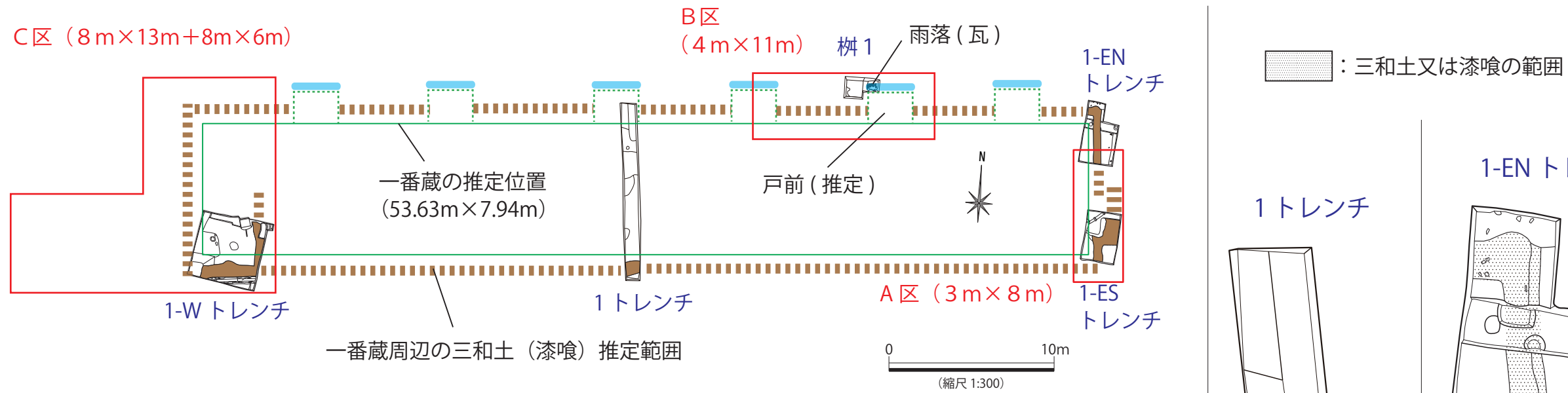


図8 一番蔵の推定復元と発掘調査区

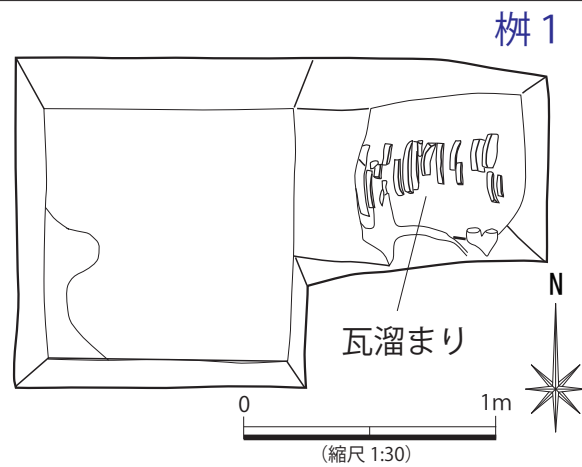


図7 柵1 (2019年度) 平面図・写真

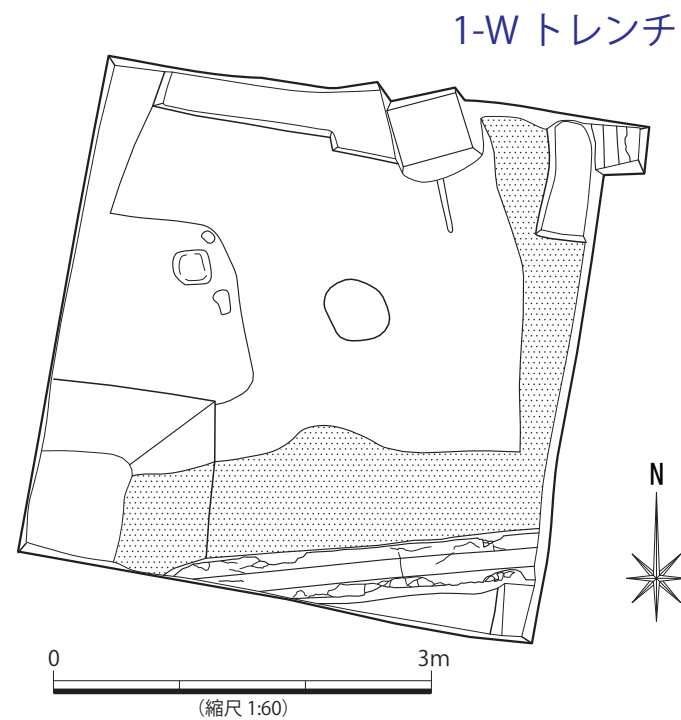


図6 1-Wトレンチ (2018年度) 平面図・写真



図5 1 トレンチ (2012年度) 平面図・写真

1 トレンチ

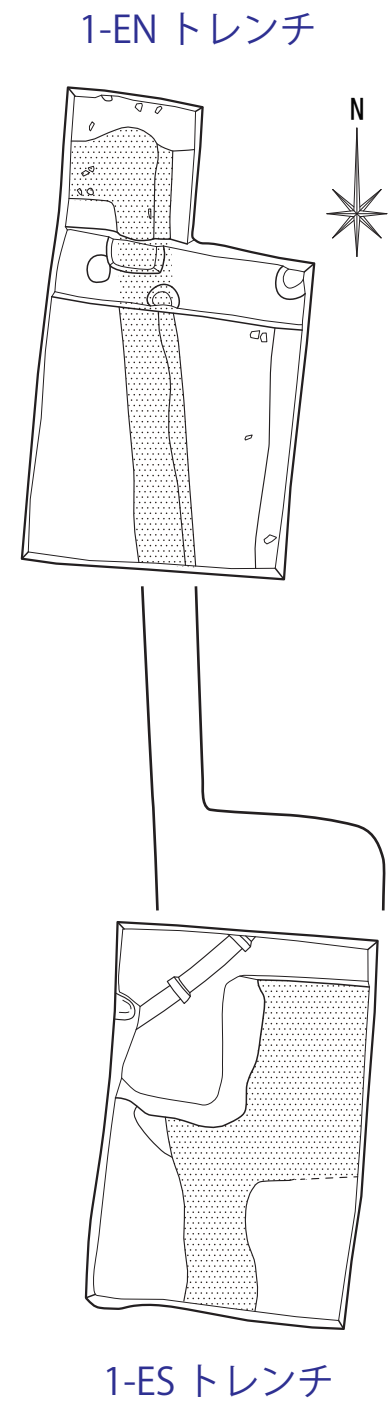
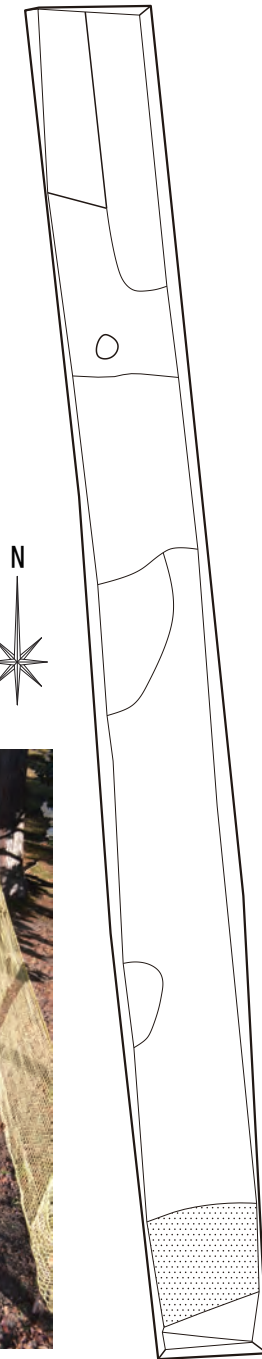
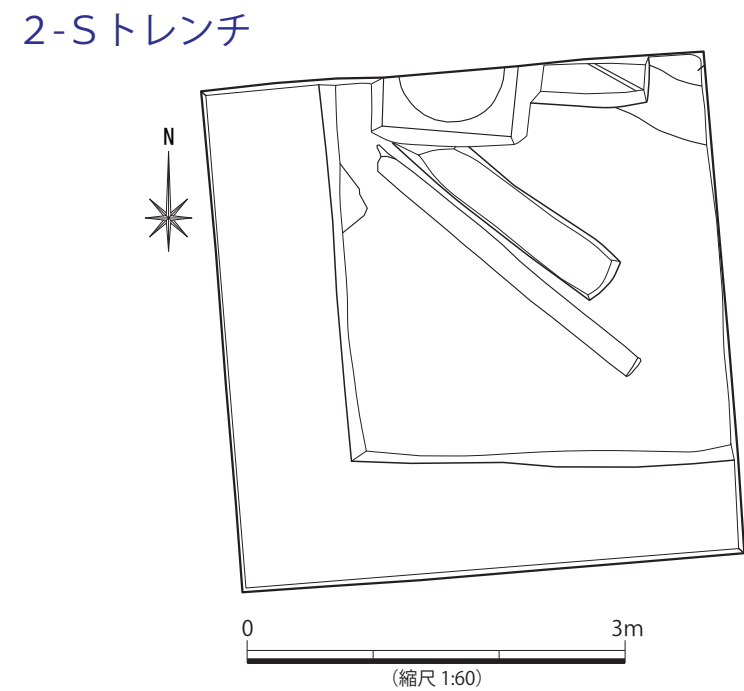
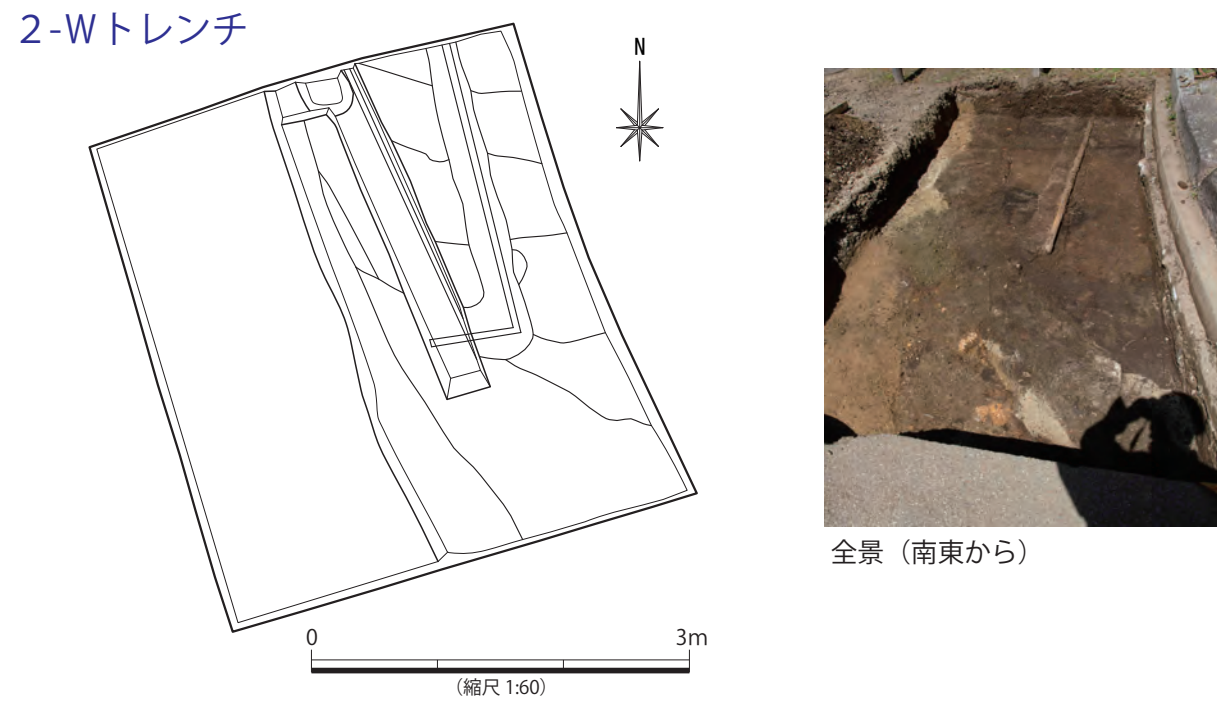
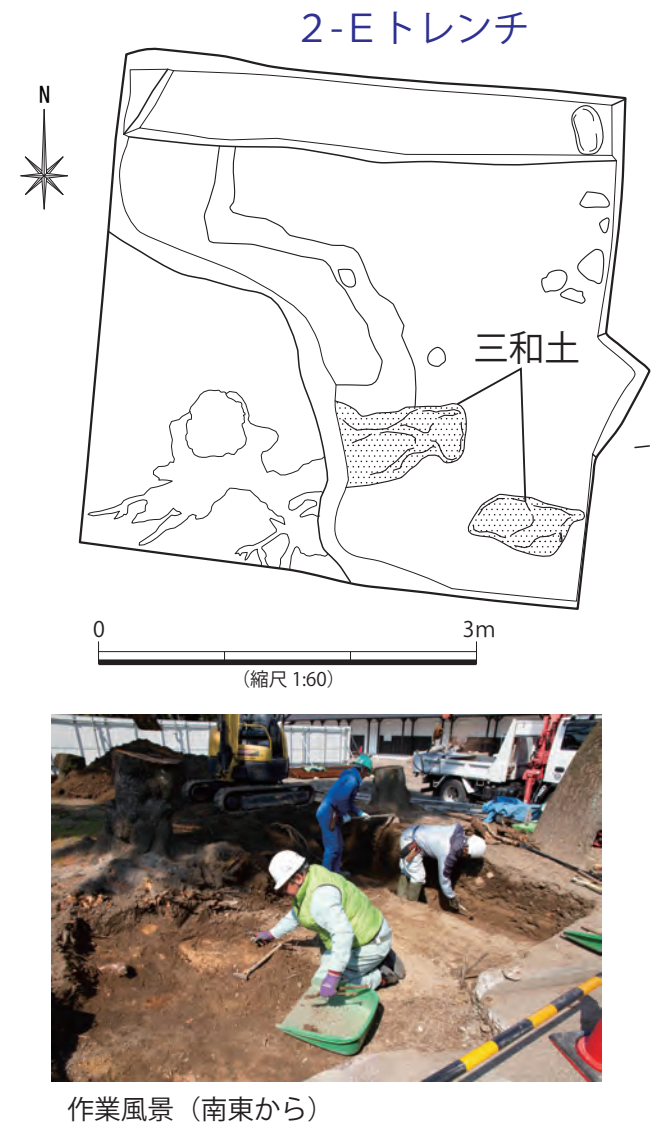
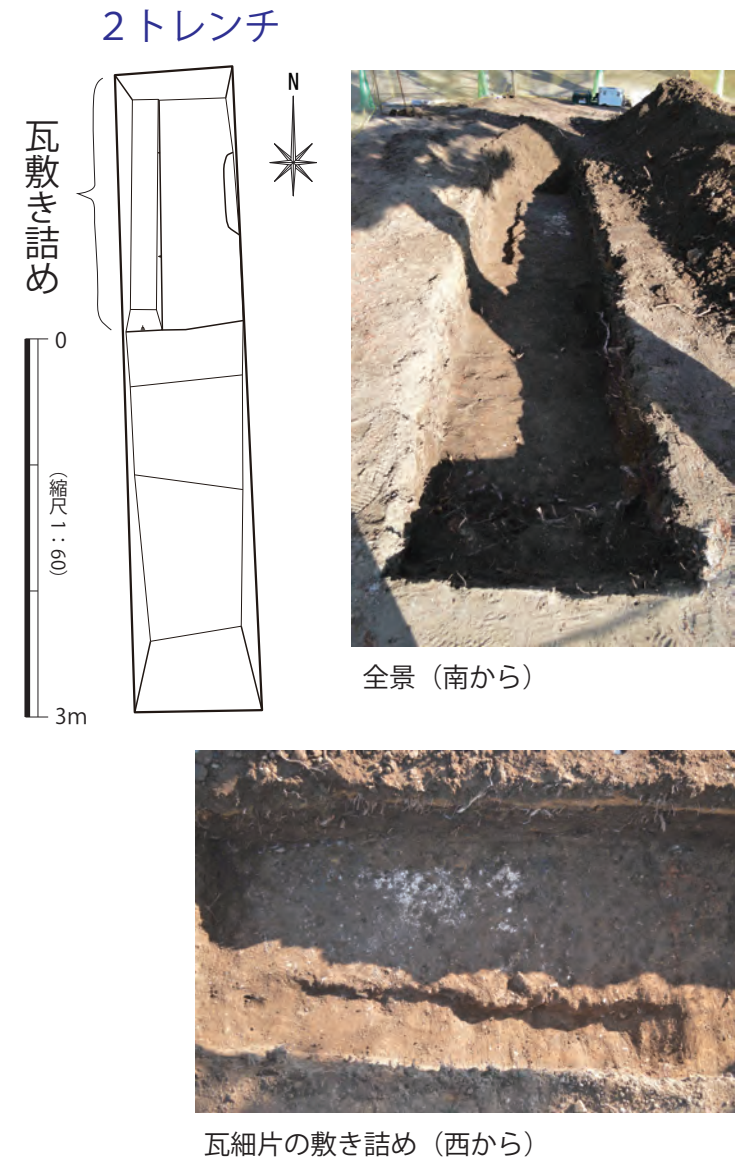
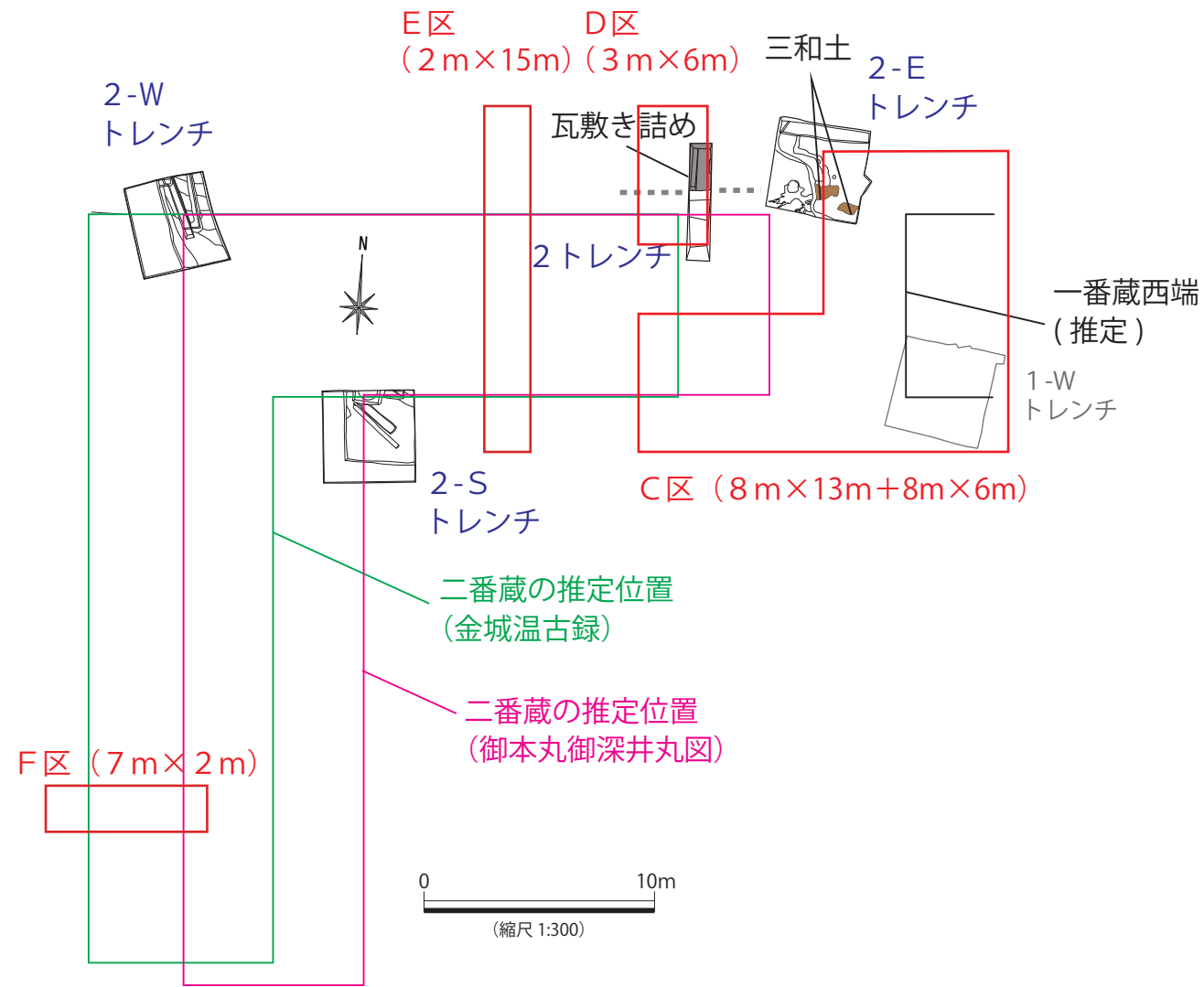


図4 1-EN/EWトレンチ (2018年度) 平面図・写真



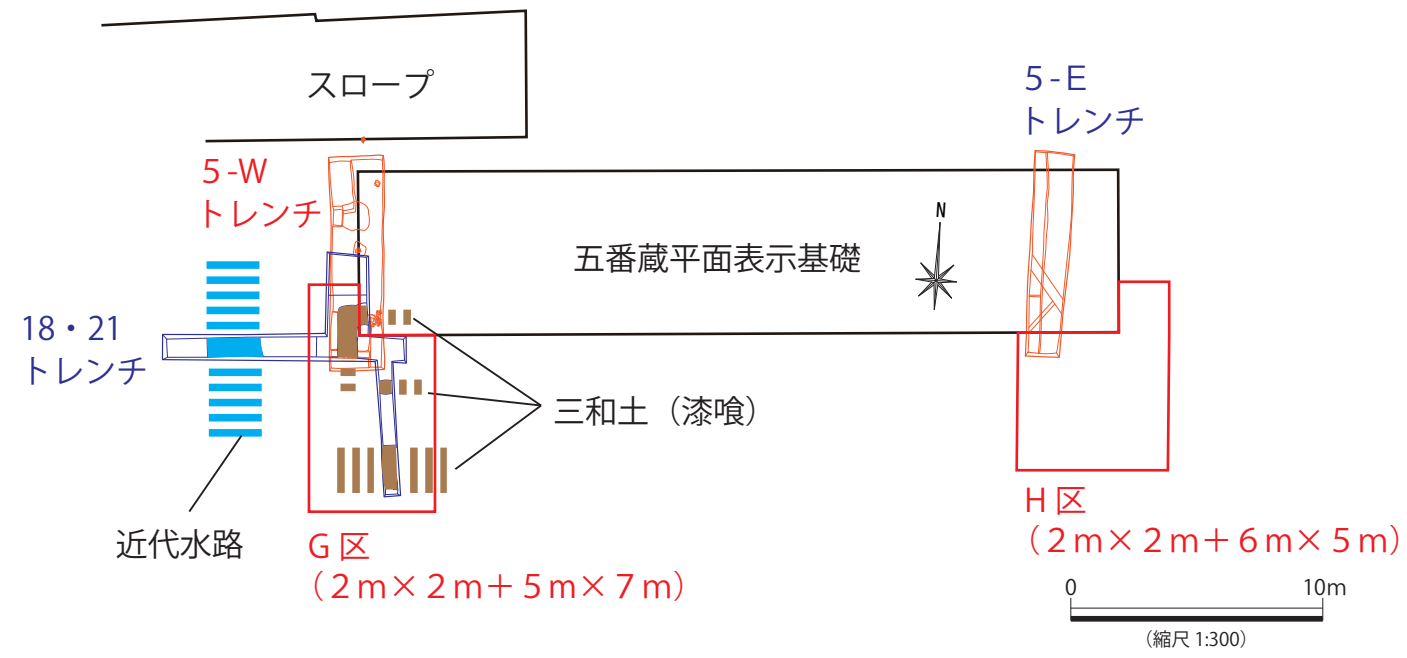


図17 五番蔵平面表示基礎と発掘調査区

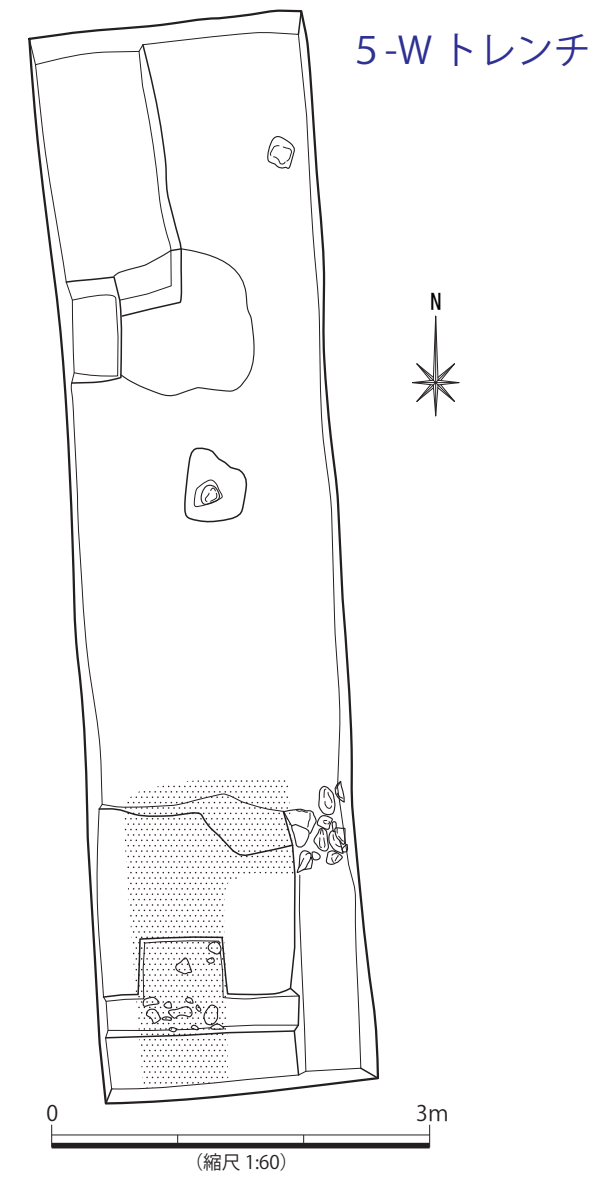


近代水路（南から）



三和土と根固め石（南から）

図16 18・21トレンチ平面図・写真



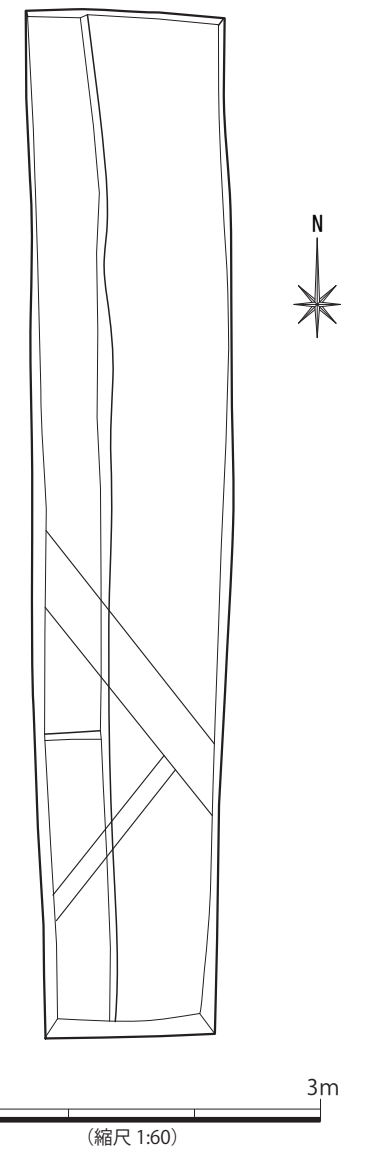
全景（南から）



三和土断面（西から）

図15 5-Wトレンチ平面図・写真

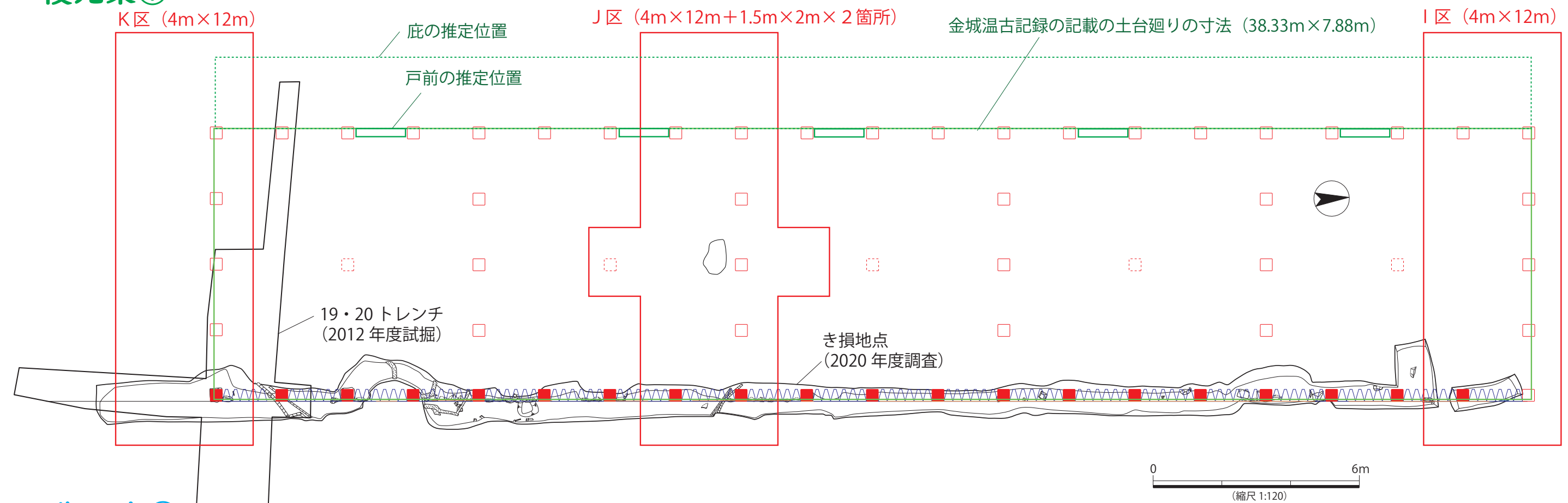
5-E トレンチ



全景（南から）

図14 5-Eトレンチ平面図・写真

復元案①



復元案②

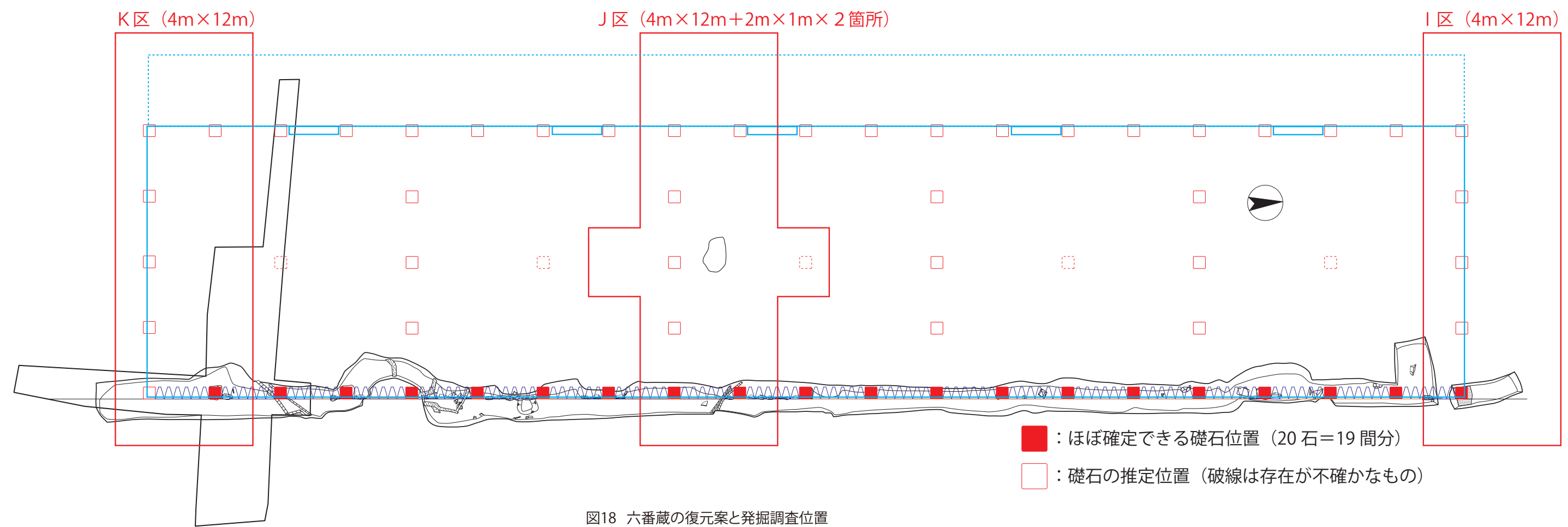


図18 六番蔵の復元案と発掘調査位置

表2 令和3年度の発掘調査区一覧

調査区名	面積	目的
A区	24㎡	一番蔵の位置把握（三和土の範囲）
B区	44㎡	一番蔵の位置把握（三和土の範囲） 一番蔵戸前・雨落確認
C区	152㎡	一番蔵の位置把握（三和土の範囲） 二番蔵の位置把握 門の位置把握
D区	18㎡	二番蔵の位置把握（瓦敷きの性格）
E区	30㎡	二番蔵の位置把握
F区	14㎡	二番蔵の位置把握
G区	39㎡	五番蔵の位置把握（三和土の範囲）
H区	34㎡	五番蔵の位置把握
I区	48㎡	六番蔵の位置把握
J区	54㎡	六番蔵の位置把握 六番蔵の礎石配置確認
K区	48㎡	六番蔵の位置確認
L区	24㎡	近世水路位置確認

合計 529㎡

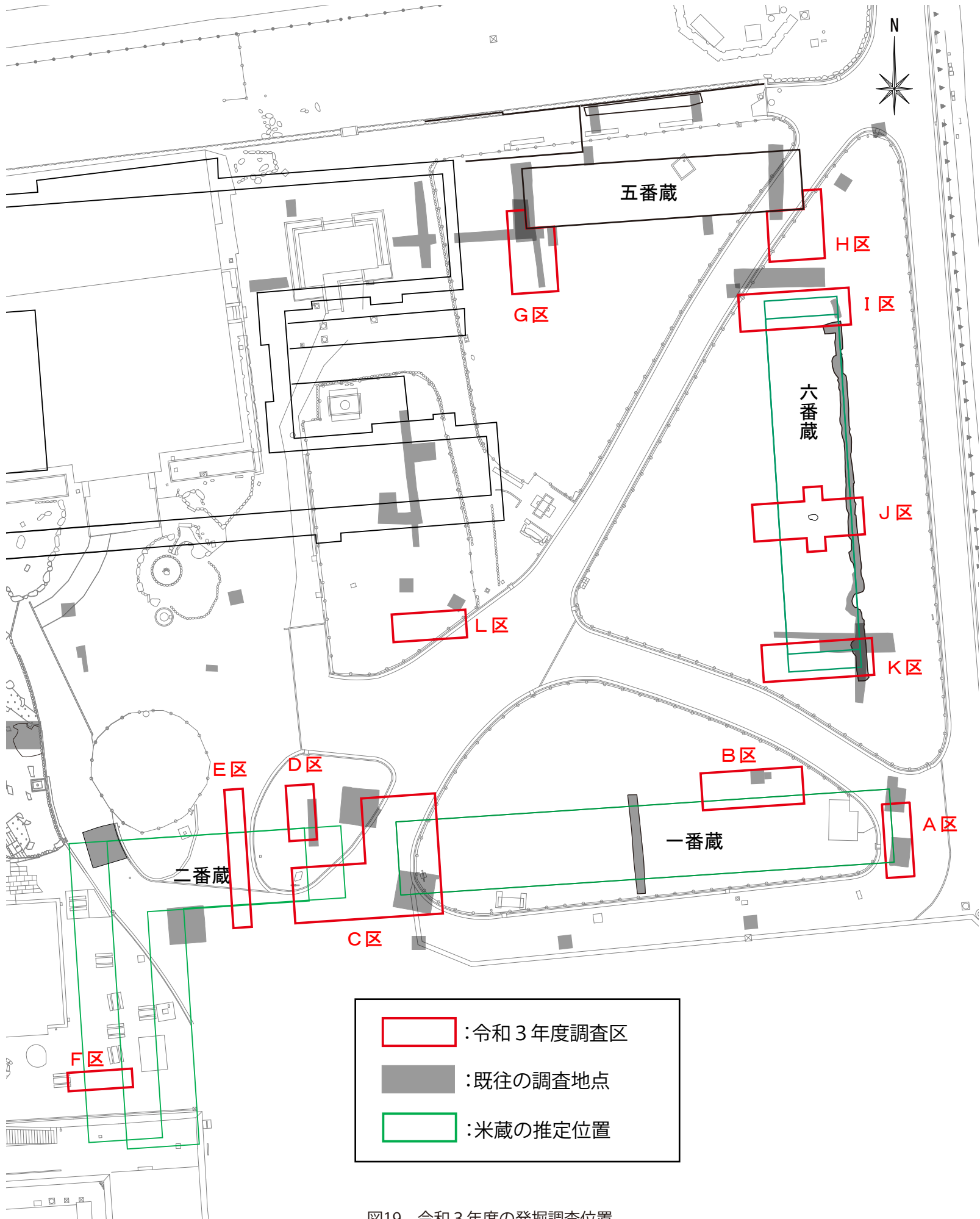


図19 令和3年度の発掘調査位置